

資料2：私たちの暮らしから考える児童労働と子どもの貧困

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

私たちの暮らしから考える 児童労働と子どもの貧困 ～インドのコットン生産地の児童労働と 取り組み事例の紹介～

ACE

一あたりまえを世界の子どもにー

認定NPO法人 ACE
成田 由香子

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

ACEがめざしていること

**子どもの権利が守られ、すべての子どもが
希望を持って安心して暮らせる社会**

遊ぶ、学ぶ、笑う。
そんなあたりまえを、世界の子どもたちに。

ガーナ インド 日本

カカオ生産地で
スマイル・ガーナ プロジェクト

コットン生産地で
ピース・インド プロジェクト

危険な児童労働から子どもを守り、教育を支援。
地域住民の自立、行政と連携した持続可能な村づくり。

消費者、企業、政府を
巻き込んだ啓発や連携。

設立: 1997年
(2005年にNPO法人化、
2010年に認定NPO法人
に認定)

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved.

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

2014年 10月11日 土曜日

マラさん 平和賞

10月11日 土曜日

朝日新聞

すべての子に教育奮闘

17歳最年少ノーベル賞

インド活動家サティヤルティ氏も

紛争テロの防止

台風19号

連合会

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved.

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

世界で過酷な児童労働をする子ども 1億6800万人 (ILO, 2013)

5歳-17歳の9人に1人

カカオ(ガーナ) コットン(インド) サッカーボール(インド) さとうきび(ボリビア)

身近に食べているもの、使っているものが、児童労働につながっている

最も多いのは農業の約6割。国では、インドが最も児童労働が多い国といわれている

コーヒー(ケニア) コルタン(タンザニア) 漁業(インドネシア) パームやし(パプアニューギニア)

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved.

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

児童労働とは ～国際条約、法律で禁止されている

児童労働を禁止する国際条約

■子どもの権利条約(国連、1989年)(批准193カ国・地域)
・「子ども」とは18歳未満のすべてのもの
・生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利

■最低年齢条約(ILO第138号、1973年)(批准159カ国/183カ国中)
・働いてよいのは義務教育を終えてから(一般的に15歳)
・軽易な労働は13歳から可(途上国は12歳でも可)
・健康・安全・道徳を損なうおそれのある労働は18歳以上

■最悪の形態の児童労働条約(ILO第182号、1999年)(批准173カ国/183カ国中)
・強制的・奴隷的労働(債務労働、人身売買、子ども兵士含む)、買春・ポルノ、不正行為(麻薬密売など)、その他危険有害労働は18歳未満は禁止

児童労働の判断基準 (4つのキーワード)
・教育をさまたげる
・子どもの健康的な発達を妨げる
・有害危険なもの
・搾取的である

ひとつでも当てはまる場合は
「児童労働」と考える

※危険・有害ではない、法律にのっとったアルバイトや、家事手伝いは児童労働ではない

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved.

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

コットン製品の生産プロセス ～日本に届くまで

種の栽培 → ワタの栽培 → 糸にする(紡績) → 生地にする(織み・縫り) → 加工(染色など) → 製品化(デザイン・縫製) → 輸入 → 販売 → 消費

1年 1年 1年

インド、中国など
(インドは、世界のコットン栽培面積1位、生産量2位、日本の綿糸輸入元1位)

中国など
(インド産コットンの7-8割が中国へ輸出)


日本

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved.

資料2：私たちの暮らしから考える児童労働と子どもの貧困

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

ベビーちゃん(16歳) ～ナガルドーディ村の女の子



- ・コットン畑で働き、皮膚病にかかったり具合が悪く、病院へ通っていた。
- ・母親が結核で働けず、医療費など借金を抱えている。
- ・家では家事、畑ではコットン栽培で働いた。賃金は約80ルピー(おとなは約100ルピー)
- ・2011年、農業の影響による血液ガンにより、16歳で永眠

「学校には行きたいし、病気になるのは辛いけど、働いて家族を支えなければならぬの。」

コットン畑で働く子どもの状況

- ・炎天下の中、1日8-10時間働き、休みは昼食の30分のみ。土日休みなく毎日働くケースも。
- ・農業の影響で、皮膚病、吐き気、腹痛、頭痛、手足のしびれなどの健康被害に悩まされる子どもが多い。

- ・子どもの命や健康が守られ、子どもの時(特に義務教育年齢)に教育を受けて自立して生きていくために必要な知識や技能を身につけることが大切
- ・親が収入を得て、子どもの教育を支えられることが大切

ベビーちゃん(15歳、左)とお母さん(中央)、お父さん(右)(2009年、インタビュー当時)

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 7

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

現状 インドのコットン種子生産地域の約90%を占める4州で【約38万人】の児童労働者、うち45%が14歳未満、約70%が女子 (2009-10)



農業がもたらす問題

- ・生産者の健康被害
- ・土壌劣化と地下水汚染、生態系・環境破壊
- ・農業使用量の増加→農家の経済的困窮

児童労働の供給要因

- ・教育への関心が低い、教育環境が整っていない
- ・女子への差別・伝統的慣習
- ・親が仕事がない・低収入

児童労働の需要要因

- ・遺伝子組換え&ハイブリッド(交配種)の種子栽培の急増→人工授粉による栽培が必要→安い労働力の需要増
- ・子どものほうが賃金が安く、言うことを聞く

インド アンドラ、ブラデッシュ州のコットン種子畑で働く少女たち

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 8

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

「コットンのやさしい気持ち」プロジェクト

目的：コットン産業での児童労働をなくす



オーガニックコットン製品の販売

ピース・インドプロジェクト(コットン生産地の子ども支援)

消費者の意識 Up!

企業の意識 Up!

消費者や企業が現地の活動を支援

児童労働のない製品の生産、調達、販売、消費の実現

企業のCSRレビュー、コンサルティング

エシカルコットンサミットの開催 講師派遣・セミナー

直営店売上や、特定チャリティ商品からの寄付

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 9

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

インドのコットン生産地における児童労働に対する取り組み「ピース・インド」プロジェクト

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 10

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

ピース・インド プロジェクト

子どもの保護と就学支援



女の子の自立支援



労働からの子どもの保護



親の収入向上



ブリッジスクール運営、公立学校の改善

畜産ビジネス、貯蓄に関する訓練

目的：インドのコットン生産地で、危険な労働から子どもを守り、すべての子どもが教育を受けられるようにする

インド南部 テランガナ州



- ・インドのNGO、SPEEDと実施
- ・実施期間は、4年間
- ・2010～14年まで、3村を対象に実施(人口約9,600人)

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 11

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

取り組み1)子どもの保護と就学支援 ～啓発、畑の見回り、子どもの保護～



住民に児童労働を終わらせよう 農業や訓練を実施



文化プログラムで児童労働についての演劇



子ども同士が就学を呼びかけや、働く子どもの横を監視する「子どもクラブ」を設置



児童労働をなくし、子どもの就学を促進させる住民グループの組織化



畑などで働く子どもがいないかを見回り、雇用者との話し合い



家庭訪問による働く子どもや親との話し合い

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 12

資料2：私たちの暮らしから考える児童労働と子どもの貧困

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

取り組み1)子どもの保護と就学支援 ～ブリッジスクールの運営、公立学校の改善～



●ブリッジスクールの設置・運営

- 働いていた子どもが、基礎学力をつけて公立学校へ編入できるような支援
- 無償で、制服、スクールバッグ、学用品、教科書、給食を提供
- 公立学校へ就学ができれば終了



●村の公立学校の改善

- 子どもと親、住民リーダー、学校教員が参加する「学校運営委員会」を強化
- 住民から行政への要請を通して、学校施設や教育の質を改善

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 13

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

取り組み2)女の子の自立、問題改善



●職業訓練センターの設置・運営

- 教育を受けられなかった女の子が、基礎教育と職業技術を身につける
- 訓練修了後はミシンを提供し、仕立て屋ビジネスを行い、収入を得られるように



●女の子のグループづくり

- 男女差別や児童婚などの問題を共有し、改善策を話し合う場づくり
- 自分で意思決定し問題解決できるよう支援

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 14

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

取り組み3)親の収入向上・経済的自立



●女性の自助グループの訓練

互助制度により、定期的に貯金して、グループや銀行から低金利で資金を得られるよう訓練



●コットン農家への農業技術支援

減農薬・有機栽培などコットン栽培技術を普及し、農家の収入向上、環境保全、持続的な農業を支援



●貧困層の親のための畜産ビジネス、出店経営などの訓練

- 子どもを学校へ通わせるのが難しい貧困家庭を対象に、ヤギ・羊・鶏を支給する畜産ビジネスや、食料品・生活用品・文具などの販売店を支援。
- 親は、子どもを学校に通わせ、得た収入で起業融資した費用を無利子で返済することが条件



Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 15

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

2010年～14年支援したナガルドーティ村での活動による変化(成果実績)

働いていた子ども約200人が労働をやめて、就学年齢の子ども約530人が全員学校へ通えるように！



コットン畑ではおとなだけが働くように



住民が寄付を集めて、机と椅子を提供。学年も3学年増設。



新しく2階建ての校舎ができて教室が増え、全学年が室内で勉強できるようになりました。



女の子約60人が、仕立て屋を経営して収入を得られるように



親約200名が貯金、収入向上に取り組み、子どもの教育を支えられるように






住民グループが中心となり、今も児童労働のない村づくりの活動を継続

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 16

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

2014年4月15日～ 新たな対象地マッデラバンダ村、タティクンタ村

	マッデラバンダ村	タティクンタ村
総人口	約5,000人	約2,600人
世帯数と、そのうち貧困線以下でくらす世帯数(注2)	1060世帯 (865世帯 (82%))	582世帯 (415世帯 (71%))
義務教育年齢(6-14歳)の児童数	729人	469人
児童労働者の数	144人(約20%)	82人(約17%)

・注1: プロジェクト開始前に実施した調査で特定された人数・数
 ・注2: 貧困線以下とは、政府規定により、年収6万ルピー(約11万円)以下の世帯のこと

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 17

一遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

プロジェクトのアプローチ

既存制度・リソースの有効活用

- 住民リーダー、行政関係者、住民スタッフ
- 協力体制づくり
- 学校制度・インフラ・社会福祉制度

行政では行き届かないサービスの開発・提供

- アウトリーチ、最低限の投入
- ※依存を高めない、自立の後押し
- ・外部者としての役割: 地域住民・政府への問題・責任の認識化

当事者の参加・組織化・能力強化

- 課題の共有・認識化、意見表明の機会
- ・オーナーシップの育成、解決能力の強化

ソーシャル・アクション

問題を解決するのに必要な社会資源を新設することや、**行政に働きかける**などの活動を通して改善を図る。問題を抱えている人の意志や権利を**代弁**するアドボカシーも含む。

コミュニティワーク

地域における社会福祉等の問題を、地域住民や行政、民間団体、ボランティアなどが**組織化**して解決してけるようにはたらかせていく

エンパワメント

支援や援助を必要としている人たちが**自らの力**で問題を解決していけるようにしていく

住民が自ら「児童労働のない村」づくりに取り組んでいく

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 18

資料2：私たちの暮らしから考える児童労働と子どもの貧困

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

児童労働のない製品の ビジネスや消費の推進 ACEの取り組み事例

◆興和との「ピース・インド・コットン」

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 19

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー


興和によるPeace India Cotton

目的

2010年よりACEが活動を開始して様々な活動の結果として児童労働がなくなった村で、綿花栽培を中心とした持続可能な農業を村民と一緒に考えていくことです。事業として取り組むことで継続的な管理体制や支援、有機農業の推進が図れると考えています。

計画の概要

- ・200エーカー(809,400㎡=245,000坪)の綿花畑のうち初年度は75エーカーをオーガニック栽培(種・農薬・肥料)、125エーカーを減農薬栽培で計画し、最終的には全体のオーガニック化・認証取得を目指す。
- ・生産した綿花は市場価格+αで全量買取
- ・種の無償支給
- ・必要な農業技術の提供
- ・オーガニック基準に準じた肥料・除虫剤の提供



興和(株)稲垣様提供

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 20

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

PIC 生産工程

- ①種
オーガニック: Non-GM(非遺伝子組み換え)種 (供給元Appachi Eco-logic Cotton, Indo-American Hybrid Seed)
サスティナブル: GM(遺伝子組換え)種の使用可能 (市場で手配)
- ②肥料・農薬 = Camson Bio Technologies Ltd.
インド製有機栽培用肥料・農薬
- ③農業指導 = Sai Ved Consultancy
現地で農民に直接指導の他に、農民名簿作成、種や農薬・肥料の在庫表作成
- ④農場認証 = Control Union India
現地を訪問して、帳簿確認、生産履歴や使用肥料・農薬の確認
- ⑤ジニング = Sri Venkateswara Seeds
村から車で約20分の所にあるジニングで大規模ではないが、梱包設備もありGMOとの仕分けも可能。
- ⑥紡績 = SSV Textile, Super Spinning Mills
Coimbatoreに本社がある紡績で糸を製造。GOTS/OCS認定工場
- ⑦織布・編み立て・縫製 = SSV textile, KPR Textile
発注に応じて、織布・編み立て後に縫製。GOTS/OCS認定工場






興和(株)稲垣様提供

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 21

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

森永製菓「1チョコ for 1スマイル」キャンペーン

日本のナショナルブランド初！
国際フェアトレード認証チョコレート！



支援してきた地域で採れたカカオを原料に使用。
パッケージには、ガーナの村のカカオ農家の写真。

国際フェアトレード基準の原則

経済	社会	環境
<ul style="list-style-type: none"> ● フェアトレード ● 最低価格の保証 ● フェアトレード・プレミアム ● 長期的な安定した取引 ● 前払いの保証 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全な労働環境 ● 民主的な運営 ● 労働者の人権 ● 地域の社会開発プロジェクト ● 児童労働・強制労働の禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業・食品の使用削減と適正管理 ● 土壌・水源の保全 ● 生物多様性の保全 ● 有機栽培の奨励 ● 遺伝子組み換え作物(GMO)の禁止

特別月間には、対象商品1点の売上につき1円が寄付に。

<http://www.morinaga.co.jp/1choco-1smile/>

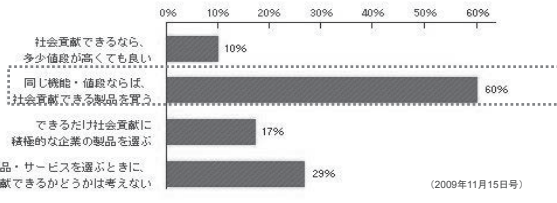
Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 22

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

消費者も社会に貢献することを求めている

企業の社会貢献が消費者の商品選択に影響を与え、それが企業の信頼度と業績アップへとつながりつつある。

図表1 社会貢献活動と消費行動



社会貢献活動と消費行動	割合
社会貢献できるなら、多少値段が高くても良い	10%
同じ機能・価値ならば、社会貢献できる製品を買う	60%
できるだけ社会貢献に積極的な企業の商品を選ぶ	17%
商品・サービスを選ぶときに、社会貢献できるかどうかは考えない	29%

(2009年11月15日)

INSIGHT SIGNAL/野村総合研究所 (<http://www.is.nri.co.jp/data/analysis/091115.html>)

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 23

一歩、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちにー

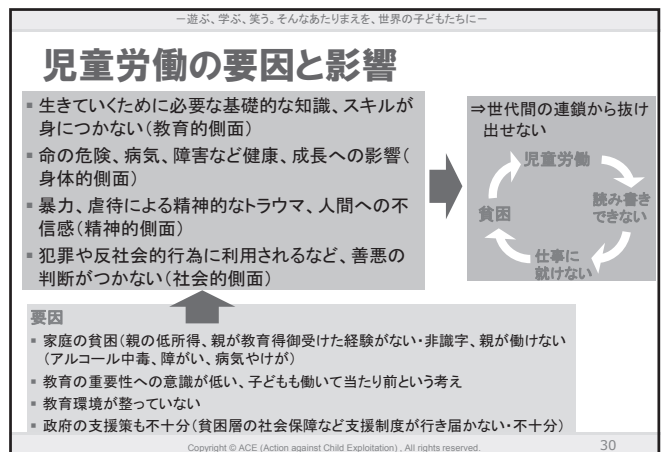
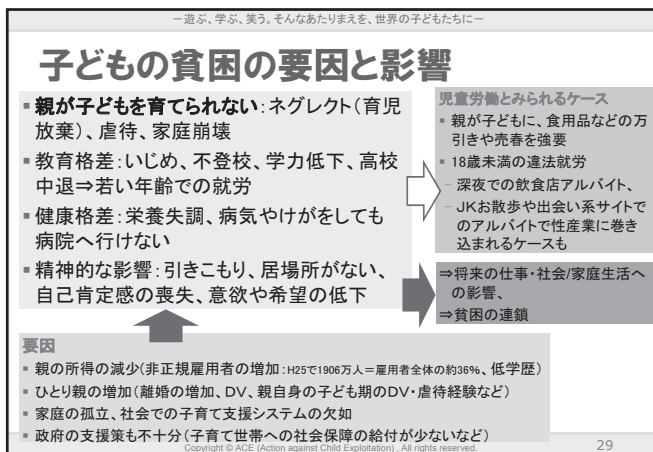
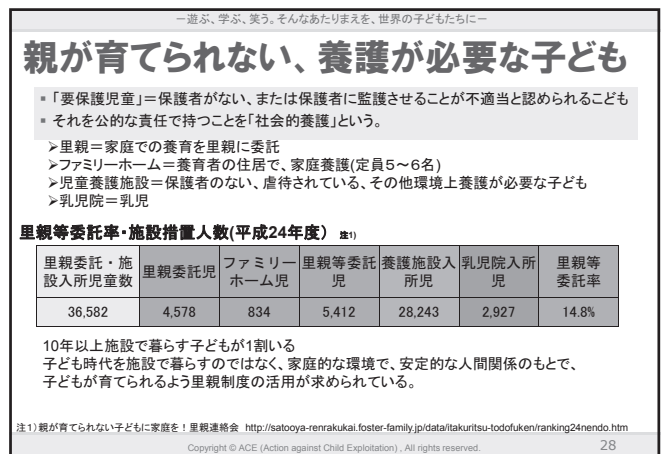
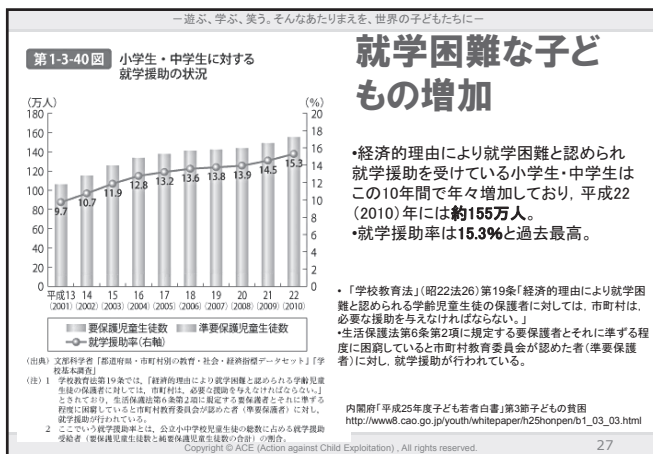
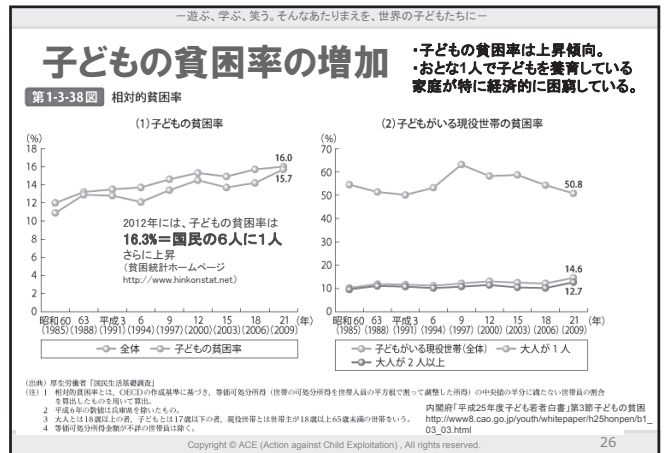
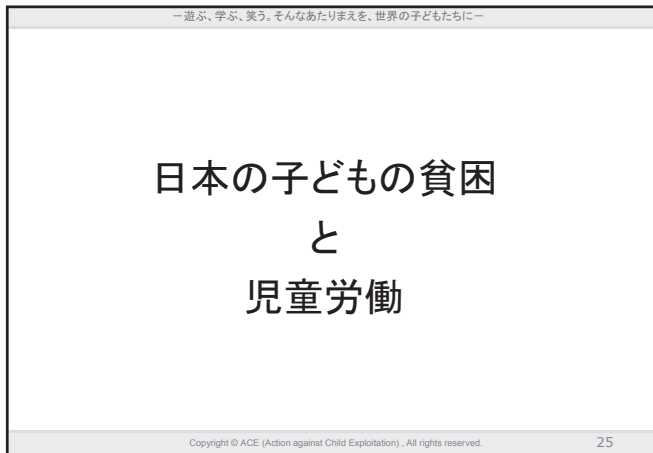
社会のサステナビリティ：消費者にも責任がある

- 2012年12月13日
「消費者教育基本法」制定
- 世代を超えて地球環境を維持し、経済社会の発展を担い、さらには他者への配慮により社会的公正を実現していくことが、すべての人(=消費者にも)に求められている
- 持続可能な社会を実現するために、経済的、倫理的、政治的な市民として社会参加できる消費者市民の育成をめざす

参考資料:「先生のための 消費者市民教育ガイド」公益財団法人消費者教育支援センター

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 24

資料 2：私たちの暮らしから考える児童労働と子どもの貧困



資料 2：私たちの暮らしから考える児童労働と子どもの貧困


子供の貧困対策に関する大綱について（平成26年8月29日閣議決定）		
目的・理念 ○ 子供の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図る。 ○ 全ての子供たちが夢と希望を持って成長していく社会の実現を目指し、子供の貧困対策を総合的に推進する。		
基本的な方針 ○ 貧困の世代間連鎖の解消と積極的な人材育成を目指す。 ○ 第一に子供に視点を置いて、切れ目のない施策の実施等に配慮する。 ○ 子供の貧困の実態を踏まえて対策を推進する。 など、10の基本的な方針	指標の改善に向けた当面の重点施策 <div><div><div><div><教育の支援> ○学校をプラットフォームとした子供の貧困対策の推進 ・きめ細かな学習指導による学力保証 ・スクールソーシャルワーカーの配置充実 ○教育費負担の軽減 ・幼児教育の無償化に向けた段階的取組 ・高校授業料減免等による経済的負担の軽減 ・大学等奨学金事業における無利子奨学金の充実、より柔軟な『所得連動返還型奨学金制度』の導入 ○貧困の連鎖を防止するための学習支援の推進 ○学習が滞りがちな中学生を対象とした学習支援 など</div><div><生活の支援> ○保護者の生活支援 ・保護者の自立支援 ○子供の生活支援 ・児童養護施設等を退所した子供のアフターケアの推進、子供の居場所づくりに関する支援等 ○関係機関が連携した支援体制の整備 ・生活困窮者自立支援制度の自立相談支援機関、児童福祉関係者、教育委員会等の関係機関が連携してネットワークを構築 ○支援する人員の確保 ・社会的養護施設等の体制整備、相談職員の資向上等 など</div><div><経済的支援> ○児童扶養手当と公的年金の給付調整見直し ○ひとり親家庭の支援施策に関する調査研究 ○母子福祉資金貸付金等の父子家庭への拡大 ○児童養護の確保に関する支援 など</div></div><div>全ての 子供たちが 夢と希望を 持って成長 していける 社会の 実現</div><div><div><保護者の就業支援> ○就業支援専門員の配置による支援等 ○生活困窮者や生活保護受給者への就労支援 ○保護者の学び直しの支援 ○住宅政策に関する支援の推進 ○子供の貧困に関する調査研究等 ○子供の貧困の実態把握 ○子供の貧困に関する新たな指標の開発 ○子供の貧困対策に関する情報の収集・蓄積、提供</div><div><施策の推進体制等> ○対策会議を中心とする政府一体となった取組 ○地域の実情を踏まえた自治体の取組の支援 ○官公民の連携プロジェクト・市民運動の展開 など</div></div></div></div>	
子供の貧困に関する指標 ○ 生活保護世帯に属する子供の高等学校等進学率 90.8% ○ スクールソーシャルワーカーの配置人数 1,008人（※平成26年） ○ ひとり親家庭の就労率 ・母子家庭の就労率：80.6% （注：注1）4%、前年度17.4%） ・父子家庭の就労率：51.3% （注：注2）2%、前年度 8.0%） ○ 子供の貧困率 16.3%（※平成26年） など、25の指標		

遊ぶ、学ぶ、笑う。そんなあたりまえを、世界の子どもたちに。

遊ぶ、学ぶ、笑う。

そんなあたりまえを世界の子どもたちに。

できることから、
あなたのアクションが、
社会を変える力になります。



■お問い合わせ先■
特定非営利活動法人ACE(エース)
〒110-0015 東京都台東区東上野1-6-4 あつきビル3F
<http://acejapan.org>

Copyright © ACE (Action against Child Exploitation). All rights reserved. 32